



中興化成工業（東京都港区、庄野直之社長、03・6230・4414）が長崎県松浦市に構える松浦工場。主力のフッ素樹脂製品を生産する主力拠点で製品ごとに機能を分担した5工場を市内に擁する。樹脂素材からシートやテープ、産業用機械の部品など多くの製品を生産している。

松浦の各工場にはF1ーF5の呼称が当てられている。2018年稼働の最新工場・F1は樹脂フィルム、産業用ベルト、多孔質製品の生産拠点。開発部門を置くほか、将来に向けた生産能力の拡張性も備える。

強化を進めているのがF2とF5の連動性向上による生産工程の効率化だ。もともとF2は同社のルーツとなる炭鉱があった場所で最も長い歴史を持つ工場。樹脂シート、プリント基板などを製造している。4月に、そのF2で半導体製造装置向け製品の溶接ライン

中興化成工業／松浦工場

切削統合で生産効率化

松浦地区で最新のF1松浦工場。開発を担うほか、拡張性も備える



を強化した。

同社は19年10月、F5敷地内で操業していた協力会社のコーエイ（長崎県松浦市）のプラスチック切削事業を取得し、F5に統合した。半導体製品製造における切削工程の内製化で技術を取り込むとともに仕掛品の動線を見直し、生産効率化につなげる。

加えて今回、後工程の溶接加工をF2で増強。一貫生産体制を高め、同製品の生産能力は「従来比2倍」（松浦管理部・製造部の三又崇部長）となった。

中興化成は半導体ビジネス部を

4月に新設した。松浦工場にも同部の生産課を設け、スピード感ある体制を構築している。

新型コロナウイルス感染症の拡大や米中貿易摩擦などで市況は落ち込むが「半導体関連は中長期で伸びる」と、三又部

長は力を込める。第5世代通信（5G）やIoT（モノのインターネット）、自動車の自動運転化など伸びを見込む半導体関連需要への供給力アップにつなげる考えだ。（西部・三苦能徳）

【工場データ】

祖業の地・松浦では約300人が勤務する。敷地面積約4万6000平方メートルのF1など5拠点で構成。Fは英語のファクトリー（工場）、フルオロポリマー（フッ素）の頭文字を取った。アジア展開の拠点にも位置付ける。